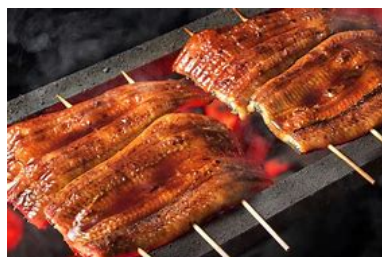


ヤマカトピックス

Yamaka Topics



ウナギの完全養殖化の進捗度

国は **2050年までにウナギの全人工種苗化**に取り組んでいます。現在は採卵から仔魚までの飼育には成功。年産数万尾を生産できるまでになりましたが、目標達成には年間1億尾の人工シラスウナギ種苗が必要だそうです。また、ウナギ種苗の生産コストは2020年の試算で **1尾約3000円**まで低減されたものの、現在主流の天然稚魚の価格は高値でも **600円**とその差は大きいのが現実です。1尾あたりの生産コスト削減、量産技術普及、生産拠点の拡大が必要となっています。



養殖魚(カンパチ、ブリ)動向

養殖カンパチの今冬に向けた見通しとしては**高値推移**かと思われます。主要産地の鹿児島では近年の生産コスト高で根本的な価格調整を強いられる状況。販売の好不調にかかわらず、安定供給のための適正価格が維持される模様。

一方、**養殖ブリ**は今春まで高値感と供給の不安定さから販売量が低迷。今冬にかけては生産コスト高でありながら**浜値は弱含み**。これからは安定供給可能で消費しやすい状態を維持し、販売数を伸ばしていく方針だそうです。また、産地では**人工種苗の採用を拡大**する動きが活発化。病気や環境変化に強い種苗で、更なる安定供給体制を目指しているそうです。

入荷状況&商品情報

10、11月
甘エビ
◎ブリ
◎ガスエビ
ササカレイ
メギス
◎アオリイカ
アマダイ
ノドグロ
ミズウオ
◎ベニズワイガニ



底引き網漁解禁後の**入荷状況は猛暑**で海水温が高く、あまり良くありません。カレイ類、ガスエビも入荷量は少なく、**高値推移**です。特にハタハタは例年になく水揚げが少なく、品質、価格面から言ってもお勧めできません。アマエビは地物をはじめ山陰方面からの入荷もあり比較的供給量があります。今年はフクラギ、ガンド類(ブリの幼魚)の入荷が続いており割安商品としてご好評いただいております。水温が異常に高いのでブリの品質がどうなるか気になるところです。

●商品価格等は各担当者にお問い合わせください。